



まほろん通信

VOL. 42

(平成24年1月15日発行)
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700 (代)
FAX 0248-21-1075
ホームページ [まほろん](#) [検索](#)



鹿の角で、釣り針
をつくったよ♪



くんせい
燻製って、意外と
おいしい～！



石でクルミを割
るのは、大変！



「まほろん森の塾」の活動

まほろん森の塾は、昔の暮らし・技術を体験することによって、子どもさんが「生きる力」を身につけようという体験学習です。第11期となる今年度は全5回開催し、釣り針づくり、縄文クッキーづくり、古代の食生活体験、凧づくりなどの体験を行ってきました。

釣り針づくりでは、鹿の角の素材を削って釣り針をつくりました。鹿の角はとても固く、削るのに苦労していましたが、最後にはみんな個性的な釣り針を仕上げていました。ただし、それが釣り針として実用に耐えるかどうかは別問題。実際に釣りを試してみましたが、大苦戦でした。

縄文クッキーづくり・古代の食生活体験では、ふだん食べることのないドングリの調理に挑戦。ドングリにクリやクルミを混ぜたクッキーと、ドングリや山菜など具たくさん鍋をつくりました。ドングリのクセのある味に、塾生達は目をぱちくり。縄文時代の食生活について深く考えさせる食体験でした。また、古代の食生活体験で併せてつくった燻製は好評でした。

最終回は凧づくり。微妙な調節が凧づくりのコツですが、塾生達は互いにつくり方を教え合いながら、色とりどりの凧を完成させました。ちょうどいい風も吹いてきて、凧は空高くあがりました。

まほろんでは来年度も森の塾を実施します。多くの方の参加をお待ちしております。

体験学習

実技講座「ひょうたんから容器をつくろう」

ひょうたんに思い思いの絵を描き、世界に一つだけの飾り容器をつくろうという講座です。ひょうたんは、平成22年に‘まほろん古代の畑’で収穫したものを使いました。

ひょうたんは、「^{まんだのつつみ}茨田堤」の話（『日本書紀』）をはじめ多くの伝説・伝承に登場する、私たちの生活におなじみの植物です。また縄文時代の遺跡からも見つかり、古くから利用されてきたことがわかっています。

この講座では、ひょうたんに合成ウルシで色を塗り、マーカーペン・墨・切り絵などで模様を描き、革ひもの飾り結びをあしらいました。参加された老若男女17名の皆さんは、ダルマを描いた渋い作品



＜素敵なひょうたん容器が完成！＞

やお花畑をモチーフにした可愛い作品など、個性的な飾り容器をつくっていました。

実技講座「縄文クッキーをつくろう」

この講座は、縄文クッキーづくりから縄文時代の食を体験学習するものです。講座では、縄文時代の遺跡から出土したクッキー状炭化物を参考にして、木の実を粉にし、他の材料と混ぜ合わせて焼いてつくりました。

今回の縄文クッキーの材料は、ドングリ・小麦・クルミ・クリ・エゴマ・卵・ハチミツ・塩です。クルミの殻は石皿を台にして凹石で割りましたが、クルミが滑って割りづらいため、凹石を台にして割ると滑らずに簡単に割ることができました。

縄文クッキーを焼くのは、本来は屋外で火を焚いて石を熱しその上で焼くのですが、今回はホットプレートで代用しました。

縄文クッキーを食べた感想は、大人は好評でした



＜体験の様子ー縄文クッキーを焼いているところ＞

が、子どもさんにはなじみのない味だったようです。しかし、一様に縄文の食を体験できて満足だったようです。

秋まつりの様子

晩秋の11月6日（日）に、イベント「まほろん秋まつり」を開催しました。当日は、たくさんのお客様に来館していただき、「落ち葉細工と昔の遊び」、「縄文の木こりに挑戦しよう」、「オリジナルの缶バッジをつくろう」、「本物の土器や石器にさわろう」の他、当館ボランティア主催の「オリエンタリング」、県立図書館の移動図書館「あづま号」など、思い思いに、楽しんでいただきました。

なかでも「縄文の木こりに挑戦しよう」は、大人気。最初のうちは、「エ〜。本当に切れるの？」と半信半疑だった体験者たちも、だんだん丸太の切れ目が深くなっていくと、ヒートアップ！最終的に、100名を超えるお客様に復元した縄文時代の石斧（せきふ）を振っていただき、イベント終盤には、5名の子ともさ



＜「縄文の木こりに挑戦しよう」の様子＞

んが交替で頑張って、見事丸太を切断することができました。大いに盛り上がった一日でした。

文化財講演会の様子

「災害と考古学Ⅰ・Ⅱ」

講演会では、「災害と考古学」と題し、地震考古学の分野と環境考古学の分野の二人の先生をお招きし、2回に分けて講演していただきました。

1回目は「遺跡が語る地震の歴史」との表題で、さんがわ あきら寒川 旭先生（独立行政法人産業技術総合研究所 招聘研究員）に地震学と考古学を結びつけて、東日本大震災との類似が指摘されている平安時代の貞観地震がん じんせきの記録について解説していただきました。地震の痕跡を丁寧に調査し、そのデータを集積していくことで、考古学が地震計としての役割を果たすこととなり、大地震の発生周期もある程度まで把握することが可能であるとの見解を示されました。

2回目は発掘調査の情報を活用した「災害のリスクマネジメントのための考古学」と題し、たかはし まなぶ高橋 学先生（立命館大学教授・歴史都市災害研究センター研究推進員）に講演をしていただきました。

講演では、環境考古学の重要性を自然環境の変遷や人間の土地利用の変遷を踏まえ、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの震災時に家屋倒壊が起こった原因が土地の利用に起因するもので、大損害を被るのは必然であったと解説され、住んでいる土地の



＜「災害と考古学Ⅰ－遺跡が語る地震の歴史－」の講演の様子＞

「開発履歴」を調べ、危険性を知った上で、対策を講じた街づくりが必要だとの考えを示されました。これらの土地の情報を得るには、埋蔵文化財センターなどの発掘調査で得られた土地の情報の活用が有効であると解説され、地震自体は回避できないが、地震によって起きる人間の生命や財産を失うことを避けることは可能であるとの見解を示されました。

両講演とも専門的な内容であったが、地形図などを使用した解説や地震に関する歴史のエピソードなどを含めた内容は、大変わかりやすく、参加された方々は、面白かったとの感想を述べていました。

東日本大震災後、改めて今回の震災について考える機会を得た事は大変有意義であったと思います。

企画展示案内

まほろん収蔵資料展「器（うつわ）の変遷」

会期：平成23年11月26日（土）～

平成24年2月19日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

まほろんでは毎年、収蔵している考古資料から福島県の歴史を紹介する「まほろん収蔵資料展」を開催しております。

当館では、これまで福島県教育委員会が実施した発掘調査で出土した、様々な時代の資料・道具を数多く収蔵・保管しています。そのなかでも今回は、器（うつわ）について紹介します。

器（うつわ）には、土を材料につくられた土器、

石を材料とした石器、木を材料にした木器、鉄を材料とした鉄器などがあります。

なかでも今回取り上げました土器は、形・文様や呼び名を変えながら縄文時代から現在に至るまで日常的に使う器（うつわ）であり続けています。

最初のコーナーでは、福島県内において出土した土器につい

て、時代ごとの特徴と移り変わりを紹介します。ここでは、器（うつわ）が生活スタイルや製作技術の変化とともに現代の姿へと変わってきた様子がうかがえます。

次のコーナーでは、煮る・貯める・盛る・注ぐなど、器（うつわ）には多くの用途があり、その用途に応じて様々な形のものがつくられたことを紹介します。

同じ用途の器（うつわ）は、時代が移り変わっても基本的な形は大きく変わることはありませんが、各時代の生活スタイルに合わせて、次第に変化していきました。その様子を、用途ごとにご覧ください。

また、まほろん常設展示「暮らしのうつりかわり」では、様々な時代の住まいや食卓、器（うつわ）や食べ物、調理方法など知恵がたくさんつまった暮らしを紹介しています。常設展示室の各時代の展示と見比べながらゆっくりご覧いただければと思います。



＜土師器壺（石川町 大池下遺跡出土）＞



＜縄文土器深鉢（天栄村 桑名邸遺跡出土）＞



＜陶器徳利（新地町 今神遺跡出土）＞

研修だより

専門考古学講座Ⅲ「土師器^{はじき}の見方（古墳時代中期）」

専門考古学研修は、各時代の発掘調査資料の中から遺物を取り上げ、遺物観察にかかる考古学的専門性の高い視点による研修です。12月18日（日）に実施した専門考古学講座Ⅲは、当館所蔵の古墳時代中期の土師器について理解を深めるものです。

この研修では、遺物を観察するための基本的な手順や他県との比較、研究史の整理を通して、新しい土師器研究の視点などを学びました。また、実物を手にとって観察し、古墳時代中期の土師器の成形技法や調整を確認しました。この観察では、今まで気が付かなかった調整痕などを指摘しました。今回



＜当館所蔵の遺物を観察している様子＞

のように、「まほろん」に所蔵されている遺物には、これまで気が付かなかった様々な発見があります。

本年度のおでかけまほろん

本年度の体験学習支援事業「おでかけまほろん」は、5月から12月までの9ヶ月間で、38校の学校を訪問して実施しました。

この中には、東日本大震災の影響などで複数校が合同で行った授業もあります。これらの学校の内訳は、小学校が36校、養護学校が2校です。県内各地域別では、会津2校、県北7校、県中14校、県南2校、いわき6校、相双7校で、県中地域の学校で最も多く実施しました。また、このほかに2月に県中地域の小学校1校を予定しており、今年度のおでかけまほろんの実施校は39校になります。

おでかけまほろんを実施した学年は、社会の授業で歴史が扱われる6年生が27校と最も多く、次に5・6年生合同が5校と4～6年生合同が1校となっています。小規模校では、全校で行った学校が4校ありました。

体験内容では、「火おこし体験」が28校と最も多く、次いで本物の土器や石器に触れる「土器さわり体験」が26校、「弓矢体験」が25校、「勾玉づくり体験」が8校で実施されました。それぞれの体験メニューは単独で行われることもありますが、ほとん



＜時代衣装を着て記念撮影♪（田村市立関本小学校）＞

どの学校では2～3種類のメニューを組み合わせで行いました。本物の土器や石器に触れ、弓矢で縄文の狩猟体験をし、自らの力で火をおこす体験の組み合わせが一番人気がありました。

また、火おこし・弓矢・土器さわり・勾玉づくりの基本体験メニューだけでなく、まほろんで行っている体験メニューの中からも選ぶことができ、今年度は「ミニチュア土器をつくる」、「時代衣装を着る」体験を行った学校がありました。

来年度も23年度と同様に、「おでかけまほろん」を実施する予定です。募集にあたっては、まほろんホームページでご案内いたしますので、ぜひご覧ください。

まほろんからのお知らせ

2月19日（日）は、まほろん冬まつり！

‘まほろん冬まつり’は棒1本での火おこし体験（もみぎり）、昔のお菓子（カルメ焼き）をつくる体験のほか、時代衣装を着たり、紙かぶとづくり、昔の遊びなど、楽しいイベント盛りだくさんです。



ご利用案内

開館時間	9：30～17：00（入館は16：30まで）
休館日	月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月4日）
入館料	無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）
その他	団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。